



④

①先祖の墓前で語る勘三郎さん ②内田住職に案内され来寺 ③歓迎の阿波踊りにつられて踊りを披露 ④桂林寺内にある中村右近太夫重勝(手前)と若狭(中)、美作(奥)の3代墓石 ⑤先祖に手を合わせる⑥急な来訪にも関わらず多くの観衆が押し寄せました



⑤



②



⑥



③

# 十八代 中村勘三郎さんが 三好市へ先祖の墓参り



①

## 初代中村勘三郎の父は蜂須賀家の家老中村右近太夫重勝

「まっつてました、中村屋っ」そんな声と拍手とが響き渡りました。4月15日、歌舞伎の名優・中村勘三郎さんが、初代中村勘三郎の父とされる蜂須賀家老中村右近太夫重勝が開基の桂林寺(池田町)を初めて訪ねました。

十八代中村勘三郎、二代中村勘太郎、二代中村七之助の一座中村屋が4月7日から25日までの興行で「こんぴら歌舞伎大芝居」に出演のため香川県琴平町まで来られており、公演の合間の時間を利用して訪問されました。

今回の訪問は、様々な史実などを調査し、俵徹太郎市長が中村勘三郎さんにその資料とともに手紙を送ったところ、今回の「先祖の墓参り」が実現したものです。

中村勘三郎さんは、俵徹太郎市長や内田好明住職に伴われて中村右近太夫重勝の墓前で焼香をし、「先祖は名古屋の方と聞いていましたが、最近まで先祖の墓が徳島にあることを知りませんでした。しかし、ここがうちのルーツに間違いのないと思います。十八

代目を継がせてもらった人間として、墓参りができてこんなに嬉しいことはありません。こちらに来るたびにお参りしたいと思います」と話しました。

歌舞伎の名跡・中村勘三郎の出自には諸説ありますが、これにより三好市説が「認知」された格好になりました。

境内では勘三郎さんの来訪を知った、徳島傾く会や地元住民ら約100人が見守るなか、お鯉さんの弟子である鈴木富子さん(西祖谷山村榎)による三味線演奏と共に、阿波踊り唄座留の連長・四宮生重郎さんが阿波踊りを披露し、勘三郎さんを歓迎しました。阿波踊りの起源は蜂須賀家のお城が完成したお祝いであったと言われています。先祖が仕えた蜂須賀家の、そんな阿波踊りを見て華やいた表情の勘三郎さんは、踊りの渦に飛び込みました。

「こちらに来るたびにお参りしたい」という言葉は私たち三好市民にとって大歓迎です。これを機に今後、三好市と歌舞伎の大名跡が密になることを期待します。

### 中村右近太夫重勝 (? ~ 1614年)

1585年に蜂須賀家政が阿波国を豊臣秀吉から与えられ、蜂須賀氏は牛田又右衛門を池田城、中村右近太夫重友(重勝の父)を海部城(別名・鞆城)へ配置しました。重友は尾張中村郷(名古屋市)の小さな領土の大名で、織田信長や豊臣秀吉にも仕え、蜂須賀正勝・家政の下で働くことが多かったそうです。

1598年、牛田氏が引いた後、中村右近太夫重勝が池田城代となりましたが、1614年に大坂冬の陣が起ると、重勝は、池田城を三代若狭守可近に任せ参戦します。しかし、仙波表の合戦で夜中の攻撃で戦死しました。

- 参考文献  
池田町史  
鳳栖山桂林寺沿革略記  
徳島エコノミージャーナル
- 参考サイト  
肥後中村家ホームページ  
ウィキペディア
- 助言  
出水康生氏(三好長慶会会長)